

長い休暇

梅雨入り間近の湖畔から
すえたにおいが這い出ている

桑の実のやるせなさ、あるいは温んだ湖水の不穏さ

水を張った茶碗をお盆で持ち運ぶように
周遊路を小股で歩き出す

不意に

回想の女の吊りあがった眼に射抜かれて
キンキンと言い募る声に襲われた

みぞおちの奥がぎゅっと喉元までせり上がる
脇の下からひやりとしたものが滑り落ちる

やはり私はもうだめなのだろうか

しかし、呼吸は続いている、確かに

四十三日という時間経過にともなう病の寛解過程を
アスファルトの裂け目を睨みつけたまま、吟味する